

第 40 回フォーラム 老舗木材加工業の改革に挑む

日時：H30年 7月 20日（金）

18:00~19:35 講演



講師

長谷川 泰治（はせがわ たいじ）氏

（株）長谷川萬治商店 代表取締役副社長

1975 年生まれ。ソニーにて、情報処理システムや国内外の工場の現場改善活動の導入を推進する「生産革新活動」に従事する。2009 年同社に入社。「ニーズに合わせたもの作り」の思想を材木屋として実現するために日々の活動の先頭に立つと共に、街のクリーン化を担う「NPO 法人深川海さくら」の代表として、地域の活性化にも取り組んでいる。

概要

木場の木材の卸問屋として 1921 年に創業した（株）長谷川萬治商店は、木材の調達から加工・販売、建築施工まで一貫して行える特長を持つ全国的にも稀な会社である。現在では木造住宅の建設施工や木質化リフォームにも事業を拡大し、時代の要請に合わせて成長を遂げている。同社の経営理念として、「木をみること、同時に森を見ること」がある。持続可能な資源である木材を大局的にとらえ、正しく活用していくことによって人と自然に優しい豊かな社会を築き上げていくというのは、創業者で曾祖父の長谷川萬治の教えでもあると講演は始まった。

木材の需要量は 1973 年（昭和 48 年）をピークに、バブル期を除くと長期低落傾向にある。木材販売事業者数は、1980 年に比較して半減した。しかし、業界動向が悪化するなか、同社は永きにわたって事業を継続・発展できた。その秘訣は「変化を恐れない社風」にあるという。住まいづくりの原点である木材・建材の業界でも多品種少量・短納期が要望されるなか、建設現場で手直しがいらぬ高い品質を保つ加工技術を確立し、異業種で進化した生産方式（セル生産）を積極的に導入し、古き産業に新風を吹き込んでいる。

セル生産は家電業界にて誕生した手法である。米国の自動車生産で誕生したコンベアを使って仕事を細分化した分業化のラインで生産する方法に対し、敢えてコンベアを外して、少ない人数にて多能工でモノづくりを行う考え方である。単一作業から複数の作業を担うことで作業者の品質、納期、コストに対する意識が高まり、そこから人間性と生産性が向上すると言われる。日刊工業新聞社が発行する雑誌「工場管理」2016 年 2 月号にて同社のセル生産が事例として紹介された。住宅用のパネルを組み立てる工程を、従来の半分の生産能力を持つラインに 2 分割することで、1 人当たりの生産性を 2.5 倍に上げることができた。また、2017 年 4 月工場管理臨時増刊号の「木材加工会社が IoT を導入」という記事でも注目された。

同社がある水の街として親しまれる江東区深川は、古くは物資の運搬や人の移動のために利用されていた多くの運河と材木屋の貯木場と共に発展してきた。海さくらの「海のゴミは川から、川のゴミは街から、街のゴミは人の心が作り出す」という想いを深川でも展開しようと、NPO 法人深川海さくらの代表として地域の活性化に奮闘している。また、木をもっと身近に、木の温もりを感じながら楽し

く豊かに暮らすことを願う木育活動にも業界を発展させる想いを込めて積極的に取り組んでいる様子が、多数の写真を使って丹念に紹介された。

木を活かし木と共に生きる社業で人を活かす改革に挑んでいる若き経営者の話に、目の前の会社の売上高や利益を追求する前に、木を愛するお客様を沢山つくることに意義があると感じたという声も聞かれたフォーラムであった。

(文責：フォーラム担当石川)

19:35~20:55 懇親会

当日の概要

参加者：36名

アンケートよりの抜粋

- 講演内容について
 - ・ 講師の人の人格が良く出て良かった
 - ・ 生産革新だけでなく、木育の話し社会貢献も積極的にされて感銘を受けた
 - ・ 木への熱い思いを感じた。何事も信念が大切と認識した
 - ・ 改革で苦労した点をもう少し聞きたかった
 - ・ 社会貢献、企業改善他幅広く活動されているのは立派である

